

嵯峨・嵐山観光(2012年5月26日)

右城 猛

■まえがき

岐阜大学での講義が木曜日(5月24日)であった。その夜はME講座の受講生が懇親会を計画してくれていたのが岐阜に宿泊。翌日の金曜日は飛騨古川を観光して京都に入り、土曜日に京都を観光することにした。

宿泊先のダイワロイネットホテル京都八条口で朝食を済ませ、京都定期観光バス予約センターの電話受付が始まる7時40分に、JR京都駅烏丸口10時30分発の「嵯峨・嵐山コース」を申し込む。大覚寺、天竜寺と嵐山散策、仁和寺、龍安寺を見物し、5時頃JR京都駅に戻るコースである。

人気が高いコースのためかバスは満席であった。申し込みのタイミングが少し遅れると参加できなかった。ラッキー。

■大覚寺(だいかくじ)

11時20分、最初の観光地大覚寺に到着。正式名称は、旧嵯峨御所大覚寺門跡(きゅうさがごしょだいかくじもんぜき)。真言宗大覚寺派の本山で、心経写経の根本道場、生花の嵯峨御流の総司所。



大門を潜ると式台玄関。ここでツアー参加者全員で集合写真を撮る。



大玄関(式台玄関)大門。背後の障壁画は、狩野永徳によって描かれた「松に山鳥図」



桧皮葺の入母屋造りの建物。ウグイス張りの廊下。歩くとウグイスの鳴き声がする。

前庭には、古式正しく左近の梅、右近の橘が配されていた。



木連(きづれ)格子戸



蝉の彫刻が彫られた金メッキの金具



私達の乗ってきた観光バス。



御影堂(みえどう)から眺めた庭園

■嵐山



嵐山のメインストリート。道の両側に土産物屋が建ち並び観光客で賑わっていた。



大沢池(おおさわのいけ)。周囲1キロの日本最古の庭園池。中国の洞庭湖を模して造られた。



渡月橋の袂の駐車場から天龍寺までの間に美空ひばり会館があった。京都に美空ひばりの家があったことから、その関係でミュージアムが建てられたということであった。



右の建物は勅封心経殿。嵯峨天皇をはじめ六天皇の写経が納められている。

入場料は一人1400円。見学するのに最低でも40分はかかるということであった。ここでの散策時間は2時間しかないので、パスすることにした。



天龍寺（てんりゅうじ）の諸堂参拝入口。天龍寺は臨済宗天龍寺派大本山の寺院。本尊は釈迦如来，創立者は足利尊氏。初代住職は夢窓疎石。「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されている。



北門に向かう拝観コースに「平和観音と愛の泉」があった。地下 80 メートルより湧き出る霊泉。この泉の水を飲んだ人は、「愛と幸」を受けられると、池のそばの立て看板に書かれていた。



メインホールである大方丈と庭園。



嵯峨野「竹林の小道」。「天龍寺」から「野宮神社」へ向かう途中にある竹林。



大方丈の裏側にある曹源池(そうげんいけ)庭園。



修学旅行のシーズンなのだろう。たくさんの学生を見かけた。



竹林の中は驚くほどよく手入れされていた。若者のグループが、成長した竹に着いている皮を見て何だろうと話していた。竹の子を知らないようであった、「竹林の中に生えているあれが竹の子」と教えてあげた。都会育ちの子供は竹の子さえも知らないのだろうか。



源氏物語に光源氏が嵯峨野の野宮を訪ねるという一節がある。それが野宮(ののみや)神社。縁結び、子宝、安産、受験合格の神様である。立て看板があり、昭和55年には皇太子殿下、浩宮徳仁親王殿下、平成6年には秋篠宮・同妃殿下が御参拝されたことが書かれていた。



若い女性グループに声をかけて、カメラのシャッターを押して貰う。



家族と社員の健康を祈願する。



家内は和恵の安産と怜佳の縁結びを祈願し、お守り札を買っていた。



時計は既に 13 時を回っていた。嵐山メインストリート沿いにある「嵐山うえもり」という蕎麦屋で昼食をとることにする。



「茶そば」を注文。面に腰があってとても美味しい。豆腐も何ともいえない美味しさ。流石京都である。



昼食のデザートに抹茶のソフトクリームを食べる。



嵐山メインストリートに面した家の塀に竹が建てられていた。鳥居を意味するようで、神様が通る道標になるようである。

■渡月橋と一ノ井堰



渡月橋が最初に建設されたのは平安時代。空海の弟子・道昌が架橋したといわれている。

現在の橋は 1934 年 (昭和 9 年) に架設されたもの。



上流側から眺めた渡月橋



渡月橋が架かっているのは一級河川淀川支川桂川であるが、親柱には大堰川(おおいがわ)と記されていた。一般には、渡月橋から上流を大堰川、下流を桂川と呼んでいるようである。



少しアップで眺めた渡月橋。



渡月橋の上流に一ノ井堰があり、洛西(らくせい)用水によって地域の田畑を潤し、京野菜やお米を育てている。



人力車に乗って観光する人も多い。京都らしい風情がある。



一ノ井堰の左岸側にはチェコ製のサイフォン式水車発電機が設置されており、流れ落ちる水の一部を利用して発電が行われている。

発電した電力は、渡月橋の歩道に設置されたLED照明60基に利用し、昼間の余剰電力は関西電力に売電されている。



渡月橋の歩道に設置された LED の照明



一ノ井堰によってできた湖では、観光用の屋根船が遊覧している。平安時代にお公家様が船遊びしたことに端を発したと言われている。

■仁和寺

仁和寺（にんなじ）は、真言宗御室派総本山の寺院。世界遺産に登録されている。

出家後の宇多法皇が住したことから、「御室御所」（おむろごしよ）と称された。

御室は桜の名所としても知られ、春の桜と秋の紅葉の時期は多くの参拝者でにぎわう。



仁和寺の正門の仁王門。徳川家光が建立したもの。左右に金剛力士を安置した朱塗りの楼門。知恩院の三門、南禅寺の三門とともに、京の三大門に数えられる。



御殿入り口。地を這うように枝が広がった松は見事。



池を配した北庭。奥に五重塔が見える。



宸殿（しんでん）。襖絵や壁などの絵は全て原在泉の手による。四季の風物をはじめ、牡丹・雁などが見事に描かれている。



御室桜(おむろざくら)。日本さくら名所 100 選に選定されている。樹高が低いのは、岩盤が固くて根を深く張れないため。花(鼻)が低いことから「お多福桜」とも言い、背が低くて鼻が低い女性のことを京都では「御室の桜のような」と評することがあるようである。



国宝に指定されている金堂(こんどう)。仁和寺の本尊である阿弥陀三尊が安置されている。



重要文化財の五重塔

■龍安寺

龍安寺(りょうあんじ)は、臨済宗妙心寺派の寺院。石庭で有名。世界遺産に登録されている。



睡蓮がいっぱいの鏡容池。



石庭。修学旅行の学生で溢れていた。



方丈(本堂)の前(南側)の庭が世界的に有名な「石庭」。草木類は一本も植えられていない枯山水の庭園。

「石庭」の東、南、西の三方向は土堀で囲まれている。庭には白砂が敷きつめられ 15 個の石が置かれている。しかし、全ての石を見通すことのできる場所はない。13 個までは数えられた。



石庭の石は大歩危小歩危から運搬されてきたものだとバスガイドが教えてくれた。

石に名前が書かれているが、それが庭師なのか石を採取した者か、阿波から運搬した人なのか分からないという説明であった。



方丈の東側の庭。苔が生えて美しい。



「方丈」の北側に置かれている石造手水鉢「つくばい」。徳川光圀の寄進といわれている。本物は「方丈」の東北側にある非公開の茶室「蔵六庵」に置かれている。

「つくばい」の表面に書かれた字は、銭形を中心の「口」を共用すれば、「吾唯足知（われただたるをしる）」と読むことができる。禅の格言を図案化し、表現したものといわれている。



鏡容池の周りの庭園にも大きな石がたくさん置かれている。

■あしがき

JR 京都駅の烏丸口にあるバス乗り場に帰り着いたのは予定通り 16 時 45 分であった。

京都駅 17 時 30 分発の新幹線のぞみで岡山まで帰り、岡山からは 19 時 5 分発の南風に乗る。高知駅に着いたのは 21 時 45 分であった。

岡山－高知間は 2 時間 40 分かかる。新幹線の東京-大阪間と時間距離は同じである。つくづく高知は遠いと感じる。土讃線は振り子列車である。左右によく揺れるので通常の電車の何倍も疲れる。船酔い気分になるのでパソコンで仕事をしたり本を読むこともできない。四国にも新幹線を走らせてもらいたいものである。

(2012 年 5 月 27 日)